

日本体育大学紀要 投稿および執筆要領

昭和 59 年 4 月 1 日制定
令和 4 年 12 月 21 日改訂

I. 投稿要領

1. 投稿資格

- 1) 投稿原稿の筆頭著者は、日本体育大学（以下、「本学」という。）の教職員および大学院研究科に在籍する大学院生・研究生とする。
- 2) 本学を退職後 1 年未満の元教職員が、在職期間中の研究活動の成果をまとめた原稿の場合には、筆頭著者として投稿を認める。

2. 投稿原稿の内容と種類

- 1) 投稿原稿の内容は他の学術雑誌に未発表のものとし、その内容に関する責任は著者が負うものとする。
- 2) 投稿原稿の区分は、体育科学系論文（体育科学部門）、教育学系論文（教育学部門）、保健医療学系論文（保健医療学部門）、一般教養系論文（一般教養部門）の 4 部門とする。
- 3) 投稿原稿の種類は、総説、原著論文（実践研究を含む）、研究資料、短報、その他とする。
 - ・「総説」は、特定の研究領域に関する、特定の視点に基づく体系的なまとまりを持つことが必要である。規程の第 4 条に定められているように、「総説」は原則として、紀要委員会の依頼によるものとする。
 - ・「原著論文（実践研究を含む）」は、学術論文としての内容と体裁を整えているもので、新たな知見をもたらすものであることが必要である。また、現場からの貴重な情報を基にした研究、指導法に関する実用的研究、総合的に分析した研究等、実践研究も含むものとする。
 - ・「研究資料」は、調査や実験の結果を主体にした報告であり、学術研究上、客観的な資料として価値が認められるものである。この場合、原著論文に必要な見出しや、それに相当する内容のすべてを含む必要はないが、関連研究とのつながりの中で、その資料を提出することの意義が明らかであり、資料そのものの説明が十分になされているものとする。
 - ・「短報」は、調査や実験の結果を主体にした報告であり、学術研究の発展に寄与できるものとする。
 - ・「その他」（研究紹介等）は、紀要委員会または紀要委員長が認めたものとし、適宜種別を設定することとする。
- 4) 投稿原稿は、和文または欧文（英語、ドイツ語、フランス語に限る）とする。
- 5) 投稿原稿には、概要を記した「欧文（英語、ドイツ語、フランス語に限る）抄録（600 語以内）」とその和訳文、「キーワード（英文・和文）」を添付する。

3. 投稿

- 1) 投稿原稿は、紀要委員会が定めた期間に、下記参照先で指定された申込書類を添えて、指定された様式に整えたうえで電子ファイルにて提出する。メールによる投稿の場合は、紀要委員会からの返信をもって受け付けとする。

参照：図書館ホームページ「日本体育大学紀要原稿募集について」

<https://library.nittai.ac.jp/kiyou/kiyou.html>

- 2) 母語以外の言語による原稿の場合は、ネイティブチェックを受けたうえで投稿するものとする。
- 3) 投稿先および連絡先

4. 審査

- 1) 審査は紀要委員会内規に従って行い、審査員の判定を以て、最終的な審査結果は紀要委員会もしくは紀要委員長が論文の掲載を決定する。
- 2) 紀要委員会が定めた期限までに審査が終了しなかった論文は、原則として次巻の投稿論文として取り扱う。

5. 校正

- 1) 審査の結果、受理された原稿（以下、「受理原稿」という。）の著者校正は1回とする。著者校正は誤植の訂正を主とし、字句の加筆、削除、変更は認めない。
- 2) 紀要委員会の定めた期限までに校了しなかった受理原稿は、原則として次巻に掲載する。

6. 別刷

掲載論文の別刷を希望する場合の経費は、著者の負担とする。

7. 著作権

- 1) 本学紀要に掲載された論文等の著作権は、原則として著者に帰属する。
- 2) 本学紀要の掲載原稿は「日本体育大学機関リポジトリ」（以下、「日体大リポジトリ」という。）に掲載されるため、当該論文等に第三者の著作物（図、表、写真等）が含まれる場合は、著者がその著作権に係る処理を行わなければならない。
- 3) 本学紀要への投稿により、著者は、論文の電子化およびインターネットによる一般公開、複製および公衆送信を第三者に委託しての公開を許諾したものであるものとする。
- 4) 学校法人日本体育大学が契約を取り交わしたデータベース等に著者抄録を転載・翻訳・複製する権利は、本学紀要への投稿により著者の許諾を得られたものとし、また支払われる利用料は大学の収入とする。

II. 執筆要領

1. 原稿の形式・書式

- 1) 投稿原稿は原則として下記のファイル形式で作成する。
 - ・ 本文ファイル：Microsoft Word 標準ファイル形式
 - ・ 図・表・写真ファイル：
Microsoft Word 標準ファイル形式、Excel 標準ファイル形式、PowerPoint 標準ファイル形式、JPEG、PNG
 - ・ 音声・動画ファイル：MPEG (mp4)
- 2) 用紙設定
A4 版縦置き横書きとし、全角 40 字 45 行で、フォントは 10.5 ポイント、余白は上下左右に各 30mm のページ設定とする（1 ページ、1,800 字）。
- 3) 原稿には、ページ下部中央に通し番号をつける。
- 4) 各ページに通し番号で行番号をつける。

2. 論文作成上の注意

1) 投稿論文の種類

論文の表紙に、投稿論文の区分（体育科学系論文（体育科学部門）、教育学系論文（教育学部門）、保健医療学系論文（保健医療学部門）、一般教養系論文（一般教養部門））と種類（総説、原著論文、研究資料、短報、その他）の別を明記する。

2) 表題

- ・表題には、原則として略語、略称は用いない。
- ・表題の使用言語は本文と同じ言語とし、英語以外の場合は、英文タイトルを付記する。

3) 著者名

- ・著者名は、姓名を略さず記載する。
- ・共著者は、当該研究および執筆に対して寄与する人を、必要最小限に記載する。
- ・援助者については、本文末尾の謝辞において記載する。
- ・著者名が和文の場合は、欧文（英語、ドイツ語、フランス語に限る）による著者名を「姓一名」の順に付記する。

4) 所属機関

- ・著者の所属機関名を記載する。
- ・著者が複数で所属機関が異なる場合は、数字を使って著者名と所属機関名とを対応づける。

5) 抄録

- ・原著論文、研究資料および短報には、600語以内の欧文（英語、ドイツ語、フランス語に限る）抄録を記載する。同時に、欧文（英語、ドイツ語、フランス語に限る）抄録の和訳文も付記する。
- ・欧文（英語、ドイツ語、フランス語に限る）抄録は、ネイティブチェックを受けることが望ましい。

6) キーワード

- ・投稿原稿には和文・英文のキーワードを記載する。
- ・キーワードは、論文の内容や特色を的確に示し、検索にも役立ち得るものとする。
- ・キーワードの数は、3～5つとする。

7) 原稿ページ数

- ・総説、原著論文、研究資料については、抄録（欧文（英語、ドイツ語、フランス語に限る）・和訳文）、本文、図・表・写真、文献表すべてを含めて、30ページ（54,000文字）以内とする。
- ・短報は、抄録（欧文（英語、ドイツ語、フランス語に限る）・和訳文）、本文、図・表・写真、文献表等すべてを含めて、10ページ（18,000文字）以内とする。

8) 電子付録（カラー図版、音声、動画のインターネット公開を希望する場合）

- ・音声・動画の再生時間には制限を設けないが、閲覧の容易性を考慮して、1ファイルにつき10MB以下とするのが望ましい。電子付録のファイル数は、原則として最大10ファイルまで、合計100MB以下の電子ファイルとする。
- ・原則として、音声・動画には効果音やBGMは含めない。ただし、研究の構成上、必要不可欠な場合には、著者がインターネット公開に必要な著作権処理を行ったうえで使用する。
- ・被験者等の顔が動画内に写る場合は、著者が被験者等に対し、事前に承諾を得るか、モザイクをかける等の対応を行う。
- ・投稿時に、指定のフォーマットで作成した完全版ファイルを提出する。

3. 本文

1) 論文構成

原則として、目的、方法、結果、考察、結論、文献表から成立していることが望ましい。ただし、それぞれの研究領域や研究事情に応じた適切な方法を選ぶものとする。

2) 倫理的配慮

ヒトおよび動物を対象とした研究の場合は、事前に倫理審査委員会の承認を得る。また、倫理的配慮がなされた旨を倫理審査承認番号とともに本文中に明記する。

3) 文体

- ・和文原稿の場合は、現代かなづかい、常用漢字、ひらがな書きとし、外来語は、カタカナ書きとする。

・母語以外の言語による原稿の場合は、ネイティブチェックを受けたものを記載する。

4) 数字

数を表示する場合は、原則としてアラビア数字を用いる。

5) 単位

計量単位は、原則として国際単位系(SI 単位系)とする。

6) 引用

・論文中で文献を引用する場合は、基本的な文献を厳選し、正確に引用する。

・引用した文献はすべて文献表に記載する。

(引用の表記方法)

(1) 本文中で文献の一部を直接引用する場合は、引用した語句または文章を、和文の場合は「」、欧文(英語、ドイツ語、フランス語に限る)の場合は“ ”でくくる。

(2) 本文中での文献の記載は、原則として著者・出版年方式(author-date method)とする。著者が2名の場合、和文の場合は中黒(・)、欧文の場合は“and”を用いる。著者が3名以上の場合、筆頭著者の姓の後に、和文の場合は「ほか」、欧文の場合は“et al.”を用いる。複数の文献が連続する場合にはセミコロン(;)でつなぎ、筆頭著者のアルファベット順を優先して列挙する。

[例]

①「・・・」(立花, 2012, p.165)と称される

②“The history of Nippon Sport Science University・・・”(Tanigama, 2016, p.1)

③豊島・桜井(2019, p.89)によれば、・・・

④“・・・”(Cronin and Allen, 2018, pp.819-820)

⑤「・・・」(有山ほか, 2019, p.101)

⑥“・・・”(Donaldson et al., 2018, p.935)

⑦・・・が報告されている(浅見ほか, 1991; 恩田・小林, 2002; 設楽ほか, 2017)。

(3) 同一著者の文献が複数ある場合は、括弧内の発行年をコンマ(,)でつなげる。同一著者の同一年に発行された複数の論文は発行年の後にa,b,c・・・をつけて区別する。

[例]

⑧皆川(2009, 2012)による一連の報告によれば・・・

⑨松尾・鈴木(2010a, 2010b)では・・・

(4) 翻訳書の著者を表記するときは、カタカナ表記とする。原著は欧文表記とする

[例]

⑩シーデントップ(2003, pp.102-103)では・・・、Siedentop(2007, p.203)・・・

(5) WebサイトおよびWebサイトに掲載されているPDFファイルなどを参考文献とする場合は、(著者名,発行年)または(著者名,online)と表記する。発行年やファイル名が特定できない場合は、(著者名,online)と表記する。同一著者の同一年に複数のWebサイトが掲載された場合は発行年の後にa,b,c・・・をつけて区別し、発行年が特定できない場合は、文献リストの表示順(1,2,3,・・・)をつけて区別する。

[例]

⑪文部科学省(2019)が公開している・・・

⑫「・・・」(日本体育大学, online)

⑬オリンピックスポーツ文化研究所(2018a, 2018b)によれば

⑭・・・(スポーツ庁, online 1)。また、・・・では(スポーツ庁, online 2)

7) 注記

・注は本文で説明するのが適切ではなく、しかも補足的に説明することが明らかに必要なときのみ用い、その数は最小限にとどめる。

・注をつける場合は、本文のその個所の右肩上に^{注1,注2}のように掲出順に番号をつけ、本文と文献表の間に記載する。

・注記の見出し語は「注」とする。

4. 図・表・写真・音声・動画

1) 本文の図版（図・表・写真）

- ・図・表・写真には、掲出順に、それぞれ一連番号とキャプションを付ける。その際、図・写真の番号およびキャプションは図・写真の下に、表の番号およびキャプションは表の上に付ける。
- ・図・表・写真は、本文とは別に一括し、本文中に挿入箇所を明記する。
- ・筆頭著者が冊子版にカラー図版の掲載を希望する投稿原稿については、刷り上がり1頁以内の費用は紀要委員会が負担する。掲載を希望するカラー図版が刷り上がり2頁以上の場合、その費用を筆頭著者が負担する。

2) 電子付録の音声・動画・カラー図版（図・表・写真）

- ・音声・動画を電子版の付録（電子付録）とする場合は、冒頭に、論文タイトル、著者名、所属機関、キャプションを3秒以上表示させる。
- ・原則として、音声・動画内の説明は字幕等の文字情報で行う。ただし、研究の構成上必要な場合は音声による説明を加えても良い。
- ・カラー図版を付録として電子版にのみ掲載する場合（電子付録）は、本文と同じ番号およびキャプションを、図・写真は図・写真の下に、表は表の上に付ける。
- ・本文中に、電子付録の概要および日体大リポジトリにて公開する旨を注記する。
- ・電子付録の掲載には、費用負担は発生しない。

5. 謝辞

研究および執筆の過程で、何らかの援助（研究の補助金、指導、助言等）を受けた場合には、「謝辞」の節を設け、援助者および機関の名称並びに内容等を記載する。

6. 文献表の作成

文献表は、原則として以下の書式に従って記述する。ただし、特別の専門分野によっては、その専門誌の記述方法に従うものとする。

- ・見出し語は「文献」とする。
- ・文献の記載は原則として著者名のアルファベット順とする。
- ・同一著者の文献を複数記載する場合は発行年順とし、さらに発行年が同一の場合は発行年の後につけられたアルファベット順に配列する。
- ・文献の書誌情報には通常、著者名・発行年・題目（書名）・誌名・出版社・ページなどを含む。
- ・著者名は姓一名順とする。

（文献の書式）

1) 定期刊行物（雑誌）

書誌情報の表記は、

著者名（発行年）論文名.誌名,巻（号）：ページ.

の順とする。

(1) 著者名および発行年

- ・共著の場合、和文の場合には中黒（・）、欧文の場合には著者のファーストネームとミドルネームは頭文字にピリオド（.）をつけて略し“and”で続ける。ただし、3人以上の場合にはコンマ（,）でつなぎ、最後の著者の前だけに“and”を入れる。
- ・発行年は著者名のすぐ後に（ ）内に記入し、論文名と区切る。
- ・同一著者、同発行年の複数の論文を引用した場合は発行年の後に a, b, c, ...をつける。

[例]

①森井浩・黒須浩二・鈴木岳（2017）

②Keller, B.S. and Raynor, A.J.（2018）

③Sherwood, S., Master, R.S.W. and Smith, T.B. (2018)

④Suzuki, K. (2017a)

(2) 論文名

- ・論文名の最後はピリオド (.) を打つ
- ・欧文では、題目の最初の文字だけを大文字とする。

(3) 誌名

- ・和文誌の場合は、略記せず、誌名全体を記載する。
- ・欧文誌の場合は、その雑誌に指定された略記法、または広く慣用的に用いられている略記法で記載する。
- ・誌名の最後はコンマ (,) を打つ。

(4) 巻号およびページ

- ・巻、号、ページは数字で統一した簡略法とする。
- ・巻号の後にコロン (:) をつけ、ページと区切る
- ・ページは論文の開始ページと終了ページをハイフン (–) で結び、最後にピリオド (.) を打つ。

[例]

⑤高橋健夫(2000)子どもが評価する体育授業課程の特徴: 授業課程の学習行動及び指導行動と子どもによる授業評価との関係を中心に. 体育学研究, 45(2):147-162.

⑥⑥Kim, M., Kim, Y. and Won, D. (2018) From commanding to serving athletes: nurturing the coach-athlete relationship. Int.J.Sports Sci. Coaching, 13(6):891-901.

2) 単行本

(1) 単行本全体の場合

書誌情報の表記は、

著者名 (発行年) 書名(版数、ただし初版は省略). 発行所 : 出版地.

の形式とする。

- ・編集(監修)書の場合には、「編」、「監」、あるいは「編著」と表記する。
- ・欧文では編者が1人の場合は(Ed.)、複数の場合は(Eds.)と表記する。
- ・最後にピリオド (.) を打つ。

[例]

⑦高橋健夫編(2010)体育科教育学入門(新版). 大修館書店 : 東京.

⑧Lenskyj, H.J. and Wagg, S. (Eds.)(2012)The Palgrave handbook of olympic studies. Palgrave Macmillan:Basingstoke.

(2) 単行本の一部の場合

書誌情報の表記は、

著者名 (発行年) 論文(章)の題名. 編集(監修)者, 書名. 発行所 : 出版地, 引用ページ(p. または pp.).

の形式とする。

[例]

⑨中村民雄(1985)大日本武徳會から全日本撓競技連盟の結成まで. 中村民雄編, 史料近代剣道史. 島津書房: 東京, p.19.

⑩Ridinger, L.L. and Pastore, D. L.(2019)Women trailblazers in sport business. Lough, N. and Geurin, A. N. (Eds.)Routledge handbook of the business of women's sport. Routledge:London, pp.51-52.

(3) 翻訳書の場合

- ・原著者の姓をカタカナ表記し、その後ろにコロン(:)を付けて訳者の姓名を表記する。
- ・共訳の場合は中黒(・)で、訳者が3人以上の場合は「: …ほか訳」と省略して筆頭訳者だけ表記する。

[例]

⑪レンク:畑孝幸・関根正美訳(2017)スポーツと教養の臨界:身体価値の復権. 不昧堂出版:東京,p.112.

⑫クラウド・ピム:三原学ほか訳(2010)Basketball offense : lessons from the legends. 社会評論社:東京, pp.109-110.

3) Web サイト

Web サイトの資料は、以下を行ったうえで用いる。

- ・他に参照可能な資料（図書や雑誌等）がないことを確認する。
- ・著者名と題目およびサイトの名称を確認する。
- ・参照時の URL および日付を記録する。
- ・内容の適切に保存（当該ページのプリントアウト等）する。

なお、書誌情報の表記は、

著者名（発行年または online）Web ページの題目,Web サイトの名称,URL,（参照日）.
の形式とする。

[例]

⑬日本体育大学図書館(online)日本体育大学 | 日体大紀要, 日本体育大学図書館,
<https://library.nittai.ac.jp/kiyou/kiyou.html>, (参照日 2019 年 9 月 24 日).

以上